

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200509		
法人名	社会福祉法人豊井会		
事業所名	グループホーム賀美邑		
所在地	〒369—0311埼玉県児玉郡上里町勅使河原1584		
自己評価作成日	平成24年1月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174200509&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市宮前2-241
訪問調査日	平成24年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、庭に桜の木や緑、花がある広々とした環境の中にある1ユニットのホームであり、室内はゆったりとしたスペースがあり、広々とした空間の中、生活の主体は利用者様でありスタッフはその生活のパートナーの理念に基づき、一人ひとりの個性を尊重したケアの提供を行い、認知症ケア専門士がおり定期的な社内研修を行いながら質の向上を目指しています。又同敷地内に併設しているケアハウスやケアセンターでのイベント、コンサートに参加し外部との交流の場の提供をおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、最寄りの駅から車で数分、公民館や小学校、そして近くに民家も多い地域にある。運営主体法人は、ケアハウス、特定施設入居者生活介護事業所(ケアセンター)、居宅介護支援事業を複合的に運営している。「グループホーム賀美邑」は、1ユニット定員9名のグループホームで、木造平屋建ての建物は、全館木目調で落ち着いた雰囲気と、バリアフリーの造りはゆったりとして安心して過ごす事が出来る。入居者が主体、スタッフはパートナーを理念に食事、入浴、排泄をケアの三本柱に日々温かな心で接している。平成24年度から3名の通所介護事業を開始予定で外部からの空気が入り、入居者にも良い刺激を受けられる事が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所入り口に理念をかけている、又研修を行いながら理念の認識を深め実践につなげている	「生活の主体は入居者」、職員は支えるパートナーとして話し合いをし、認識を深め合っている。グループホーム独自で「生活を支える食事、入浴、排泄」について具体的な目標を立て、入居者主体のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の下校時の見守り隊に参加し、地域の方々との交流に努めている。又散歩に出かけた時には必ず挨拶を心がけている。	町や地域の情報は、広報誌や理事長から得て、公民館のふれあい祭りや小学校の運動会に参加等している。昨年から小学校下校時の見守りを地域の人達と一緒にやっている。又、法人合同の納涼祭に参加の方々と挨拶や言葉を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事には積極的に参加している。中学生の体験学習の受け入れをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に事業者を理解してもらえるよう努め、意見交換や助言を通してサービスの向上に繋げている	町担当者や地域包括支援センター職員、法人とホームの職員をメンバーとして、定期的に年6回開催している。ホームの現状、及び、活動、行事報告、意見交換、助言を議題にしている。	年6回の定期的な開催は評価出来るが、入居者や家族、地域関係者等、多分野からの参加を得て、地域密着型サービスとしての役割、意義が、より活かされる運営推進会議への取組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者に毎月の空床報告や利用状況を伝えている。又運営推進会議を通して活動報告を行っている。	報告、相談等、必要に応じて連絡を取合っている。担当者や地域包括支援センターの職員から運営推進会議への参加を得て、活動報告や現場を視察してもらい、現況を理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の場を設けている。身体拘束のマニュアルを目のつく所に置いてある	マニュアルや研修で身体拘束に該当する行為等に対する理解を深め、しないケアを実践している。日中は全ての箇所は施錠せず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の場を設けている。又虐待への早期発見に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも見られる所に置いてある。家族にも希望に応じて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を十分に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにご家族等のご意見や要望を聞く機会を設けている。又普段より意見や要望が言いやすい雰囲気づくりを心がけている。意見、要望等の設置箱を置いてある	意見箱を設置しているが、意見や要望が寄せられた事はない。面会や電話等で生活の様子を伝えながら、何でも話しやすい対応を心掛けているが、苦情は殆どなく、個別の事柄が主である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や他、常に意見を聞くよう心がけている	月1回、ほぼ全職員参加で、研修も含めた職員会議を実施している。意見や提案を互いに出し合う場として、司会や進行、記録を輪番で担当したり、事前に議事内容を掲示し、時間の有効活用と、多くの意見が出る工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤を積極的に常勤に登用したり、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を奨励している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修への参加の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域部会の研修や会合で交流する機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、安心の確保及び環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや困っていることが話せる雰囲気づくりをおこない、連絡を密に取りながら、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、スタッフ一同が共通の認識が持てるよう、話し合いの機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体はご利用者であり、スタッフはその生活のパートナーの理念に基づいたケアをおこなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事に参加して頂けるようにしている。又生活状況を折に触れ報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの友人の訪問や電話での会話など、馴染みの関係を切らさないよう、支援している。	家族や親戚、知人等の訪問や電話はいつでも支援している。又、面会が滞りがちな家族には、現状報告を兼ね、電話等で依頼している。訪問理美容師やボランティアに定期訪問してもらい、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通して自然の流れで利用者同士が関われるよう支援している。又利用者が孤立しないよう声がけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じる事を説明している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から本人の思いや希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有を行いながら希望に沿った暮らしができるよう検討している。	個別に話をする時間を多く持ち、その中で得た思いや意向を申し送り簿に記載し、一貫した対応に役立てている。言葉や表情、様子等多面的な観察から、本人の立場に立って把握し、理解するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴や暮らし方などを伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、処遇日誌で一日の過ごし方、心身状態、活動が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、看護師などの意見を取り入れて作成している	状態安定時は6ヶ月毎にモニタリング、見直しを計画作成担当者が立案して家族に説明し、要望、意見を聞き、完成して同意を得ている。変更を要する場合は、その都度カンファレンスを実施し、現状に即した計画を作成している。医療や身体面については、看護師のアドバイスを取入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスを行いながら介護計画の見直しをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、運営者、職員で話し合いながら行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる各種教室の開催、町主催の文化祭の开展を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関があるが、希望医がある場合は、できる限り対応できるよう努めている	協力医がかかりつけ医の人や、歯科、及び、眼科等他科の受診は、ホーム側で支援している。希望のかかりつけ医の人は、家族同行で受診している。協力医は状態急変時、依頼すれば訪問診療が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と密に連絡、相談をし必要な処置をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に面会し担当医、看護師に情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護が必要になった場合の当施設の指針を説明した上で希望を伺い、できるだけ沿うよう取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針に基づき説明し、同意を得ている。状態悪化や重度化に至った時、要望があれば改めて看取り介護について説明し、医療機関と方針を話し合い、連携をとり、家族の協力を得て、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアル、救急救命への研修参加		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に消防署の指導を受けている	ホーム単独で、火災想定訓練を年2回、入居者参加で実施している。又、時には法人合同の訓練にも参加している。担当者は反省等を記録に残している。米、水等の備蓄や簡易トイレ等の用意もしている。	火災以外の非常災害に備えたマニュアルや対策の整備、又、非常時に不可欠な地域住民の協力体制構築に向けての取組みが期待される。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動には十分注意するよう指導している	一人ひとりを尊重した関わりを大切に支援している。言葉遣い等で乱れが見られた時は注意し、入居者の負担にならないよう気をつけている。入浴、排泄時の声掛けやケアには特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語的コミュニケーションや非言語コミュニケーションを通して本人の思いを汲み取ることができるようし、自己決定への働き掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、まずは本人がその気になる働き掛けを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には本人の希望を確認し、季節、天候に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は、積極的に参加してもらう。食器拭きやテーブル拭きを行っている	法人の栄養士作成の献立で、朝夕はケアハウスで一括で、昼食はホームで調理し、提供している。土日は希望を取り入れたおやつを、粉をこねたり、丸めなどの簡単な作業をしながら、一緒に手作りしている。職員も一緒に見守りや介助をしながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立により栄養のバランスの取れた食事をしていただく又硬さや味付けなどは一人ひとりの状態に合わせて変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、本人が行える方には声掛けをしている。介助が必要な方には職員が行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、早めのトイレ誘導を行っている	排泄チェック表や個々のパターンにより、早めに声掛けや誘導をし、トイレでの排泄に向け、支援している。歩行力低下の人は、夜間はポータブルトイレを居室に設置し、失敗を少なくする配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動の実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5日の入浴日を設け、時間に余裕をもって入浴してもらう。又拒否が合った時は時間をずらすなどの工夫をおこなっている。	月～金曜日まで週5日入浴日を設け、一人平均週2～3回入浴を支援している。個浴を中心とし、ゆっくり楽しんで頂いている。気分や体調等で辞退や中止の時は、時間や日を変える等臨機応変に対応している。菖蒲湯、柚子湯、入浴剤等を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の調整、交換、布団干しをこまめに行い、気持ちよく眠れるよう心掛けている。又天候の良い日には外気浴や散歩を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬の種類、効能を記録し、いつでも見られるようにしてある。変更があった時は速やかに全職員に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみ事をレク活動に取り入れながら、出来ることはやれるよう職員は見守りながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩に出る。又季節事に季節の花を楽しめるように外に出かける	天候の良い日は、ウッドデッキで日光浴や外気浴をしながらお茶を飲んだり、近所を散歩している。又、桜、アジサイ、コスモス等一寸遠出の花見にドライブがてら外出する事もある。その他、家族の協力で個々に買物や外食に出掛ける人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人は持っていないが、必要に応じて預かっているお金があることを話してある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内、居間は自然の光と風は入るように設計されており、照明も明る過ぎないよう工夫されている	共有空間はゆったりとした広さで、全てバリアフリーとなっている。食堂兼リビングは天窓からの採光、通風、ウッドデッキへの出入り口からの日差しで、快適に過ごせる場所となっている。ソファを置き、テレビを見たり、思い思いに過ごせるコーナーになっている。台所を挟み、リビングと廊下が廻廊式になっていて、歩行訓練等に適している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さなスペースを作り、気の合う人とおしゃべりを楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇を持って来てもらっている	使い慣れたダンスや椅子、大事な三味線等を持ち込み、個々に居室作りをしている。押入れがあり、整理整頓や季節の入替えに役立っている。居室からリビングの様子が分かり、ベランダへの出入りが自由に出来る。入口の上部窓は素通しで、さり気なく中の様子を把握しやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フローバリアフリーとなっており、手すりが設置してある。居室内も利用者に合わせて危険の無いよう工夫している		